



第13回森林塾報告 テーマ「保科山林見学」

『世界有数のカラマツ人工林』

カラマツ林業の発祥地である長野県において、有数のカラマツ保育の担い手という事は、とりもなおさず世界有数の担い手という事になります。すなわち保科先生の

林は世界有数のカラマツ人工林と言い換えることもできます。

最初に見せてもらった戸台の山林は二十五ヘクタールの広さ。三十五、三十九年生の



戸台の保科カラマツ林。いつ見ても散髪後のよう

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路



あと21年すると一本で1m3のカラマツになる

カラマツが、すでにヘクタール四百本前後まで間引かれていました。なかでも十アールの調査区では三十九年生のカラマツを三十四本まで落としてあり、平均直径は裕に三センチを超え、地位指数が二十四と特に良いことも味方して六十年生時に単木で一立方の大径材つくりのめどがたつたと、保科先生、自信のほどをチラリ。

ろん県内の樹種別の素材生産量もカラマツが第一位です。いわゆる天カラと呼ばれる天然カラマツの利用は古くからあつたものの、植林が日々のに行なわれたのは戦後で、人工造林カラマツの保育と利用は長野県林業の最重要課題の一つとなつていきます。

を繰り返すという、独自の方法で、一見大胆な育林を行なつてきました。また造材材として使われるときに大きな欠点となる死節を少なくするための枝打ちや、林地への肥培など、十数年続けてきた長野県指導林家としてのチャレンジや後輩の指導も忘れません。



白秋の詩を思い浮かべながらつづら折れの歩道を上がる



落葉が始まり、曇り空に幹が沈んでゆくように見える



こちらは集約的保育をしているヒノキ林

れるというカラマツの欠点も、県林業総合センターなどの研究で技術的にはほぼ解消され、あとは住宅や家具にどんどん使ってもらい、あの美しく力強い木目になじんでもらうだけとなっています。ご自宅に手作りのカラマツウッドデッキ、いかがですか。

今回の内容

第13回 11月10日(土)

保科山林の見学

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。市役所まで行きそこで車に分乗。長谷村に向かう

9時30分 長谷村にて保科先生、イントラ数名と合流。天竜川の支流三峰川のさらに支流小黒川の中流標高千二百五十メートルの保科山林へ。



組合員は格安で炭窯を借りられる

1時40分 近くの熱田神社

1時 高遠のお姫様がマツタケ狩りをしたというアカマツ林。今はもうマツタケはほとんどでないがシウウゲンジヤキシメジは出る。すぐ下の保育園児のキノコ狩りに開放しているとのこと。四月の終わり頃にはミツバツツジの花満開

11時30分 山を降り、鹿嶺高原入り口の元マツタケ山に向かう。ここでお昼の予定が、少し寒いので溝口生産森林組合の炭焼き小屋を借りて避難。昼食

2時 美和湖対岸の樹齢百十年のカラマツ、アカマツ見学。さらに七年前に森林塾第一回で植林したヒノキ林へ。落ち葉のサイクリングロードは気持ちがいい。途中真つ暗なずい道歩く。

雪起こしや鹿対策など、このあたりのヒノキ林は手がかかる。保科先生ありがとうございます。隣のカラマツ林は枝打ちがされていて美しい。

10時15分 保科山林へ到着。急傾斜地を十分ほど歩いて調査区へ。見学時に根元まで良く見えるようにと灌木がきれいに刈り払ってある。平均樹間距離が5.5mもあり、Srが23で落葉が始まったこともあり、かなり疎の感じを受ける



宝珠を持った龍。熱田神社で

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、佐藤誠さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、久部さん、藤野さん、松ノ

3時 ついでにこの際と橋の袂に走る中央構造線を見学して解散

次回以降の予定
第14回 12月1日(土)
炭焼き、そばうち
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。

元さん夫妻、松本さん、桃澤さん、森さん、山浦さん、池田さん、塩田さん、則竹さん、芳賀さん、藤本さん

講師/保科先生
スタッフ/大野、川島、椎原

平林、宮崎、早川、坪木
島崎先生は教授をされている岐阜県立森林文化アカデミー、初めての文化祭が開催され、ご出席のためお休みでした

お昼はそばを頂きましょ。そばだけでは不安な方、不満な方はお弁当持参のこと。両先生と菅さん、森さん、イントラ椎原さんが講師となります。

窯の火の番をしつつ、夕方からは希望者による忘年会に突入というパターン。会費千円。希望の宴会料理あれば事務局まで。おらが村の郷土料理大歓迎。差し入れも歓迎。そうだ、また炭窯の煙突で燻製を作ってみますか？



紅葉もそろそろ終る。今年はいま一つかな



窯出しは翌朝になりますので都合のつく方は朝までお付き合いください。雑魚寝になります。シユラフあれば持参下さい。希望者にはできた炭お分けします。

第15回 3月2日(土)
キノコ菌打ち

平成13年度の最終回となります。シイタケ、ナメコ等の種駒、オガ菌を原木に接種します。場所等未定。またこの時期の伊那谷は車の滑り止めが必要と思いますので道路状況を事務局までお尋ねください。

第15回 3月2日(土)
キノコ菌打ち
平成13年度の最終回となります。シイタケ、ナメコ等の種駒、オガ菌を原木に接種します。場所等未定。またこの時期の伊那谷は車の滑り止めが必要と思いますので道路状況を事務局までお尋ねください。



湖畔にはサイクリングロードが張り巡らされている



中央構造線のかけらを持ち帰ろうとしている人々



中央構造線はドイツのE・ナウマンにより命名された



樹齢110年のカラマツ。直径は60cmくらい

ワンポイントレッスン

カラマツ大径材生産の一例
保科先生の保育方法をこ
紹介させていただきます。

地位指数21以上の林分を
選定する。

植林は、苗の根の広がり、
植付け方に注意しながら
丁寧に行う。

下草刈りは、枝が枯れ上が
らないよう状況により年
二回実施するなどして、
初期成育を助ける。また、
根曲がり木の発生防止に
もなる。

五年生以降は、形質の悪い
木・成長の著しく劣る木
を中心に除伐を繰り返し、
第1回目の間伐までに1
500本/ha程度にする。
樹高10mの時に第一回目
の間伐を実施し、以降常
にSr22以上を保つように
間伐を繰り返し、最終間
伐を25年生とする。
枝打ちは、常に樹高の二分
の一を目標とし、「節抜
け」しやすいので、必ず「二
段切り」をする。



「存在意義は、森にあり」
安井 賢悟



KOAからの封筒を郵便ボ
ストで見つけた時、何だか嫌
な(?)予感がしましたが、案
の定、リレー通信の依頼でし
た。やんちゃなおちびちゃん
二人と十一月末に三人目の出
産をひかえた身重の妻をかか
え、さらに仕事の残業も加わ
り、白い目で見られながらも
何とか森林塾への参加にこぎ
つけたと思っていたところ
に、宿題までいただいたいま
いました。でも、これも何か
の縁です。せっかくなので、
た執筆(?)の機会ですので、
喜んで書かせていただきま
す。ただし、文章にはあまり

こんな自分が
森に興味をもつ
たきっかけは何
だったんだろう
と思いついてみ
ると、もともと
はアウトドア好
きから始まった
ように思いま

自信がありませんし、皆さん
に伝えるほどの話も持ち合わ
せておりませんので、そのこ
ころはお許しください。
私は濃尾平野のとある田舎
に生まれ育ち、学生時代は名
古屋で青春をおくり、その
後、しばらく大阪でサラリー
マン生活をしていました。現
在は名古屋にもどり公務員を
しています。
森林や林業とは全くと言っ
ていい程無関係な人生を歩ん
てきましたが、昨年の森林塾
への参加をきっかけに、少し
ずつではありますが、いろい
ろな形で森と関わりを持つよ
うになり始めています。休日
を利用して、森林ボランティア
や地方で開催される林業就
業希望者の現地体験などに参
加したりして木に触れる機会
を少なからず作っていました
しています。(とはいっても、
おちびちゃん二人と、自動車
を運転しない妻を抱えていて
は、休日の自由もままなら
ず、もっぱら買い物や家族
サービスに消えていってしま
っています)

す。スキーやキャンプなど自
然の中の遊びを通して、無
意識のうちに山や森に関心を
持つようになったのです。学
生時代は白馬や北海道へ数ヶ
月間のアルバイトに行ったり
もしました。仕事のかたわ
ら、暇を見つけては大自然の
中でのんびりと時間を過ご
し、このまま山に見守られな
がらの生活をしてみたい、そ
んな想いを持つようになった
のです。そういったものへの
憧れから、次第に本当の意味
での「自然」というものへの
関心が変わっていききました。
環境問題、自然農法、パー
マカルチャー。そういったた
くいのものへの関心が非常に
高くなって来た頃にある一冊
の本に出会いました。それ
は、東京大学北海道演習林
長、高橋延清氏、通称どろ亀
さんの著書でした。そのなか
で、初めて日本の森林の現
状、林業の現状を知ること
になりました。今まで目にした
ことのない林業の専門用語が
並んでいましたが、自分でも
不思議なくらいに夢中になっ
て読んでいました。自分の中
で何かが動いたような、そん
な気さえおこさせました。
日本の森を守るために、何
か自分にできることはないん
だろうが、少しでも木に、森
に恩返しをしたい。そんなこ
とを真面目に考えるように
なったのです。

そうこうしているところ
日、何気なく目にしたテレビ
番組で、環境問題の特集で森
を守る人達を紹介する番組を
目にしましたが、ほんの数分
しか見ることができず、何と
か記憶したキーワードは、
「伊那」と、初めて目にする
「元信州大学教授 島崎」の二
つだけでした。しかし、縁と
は本当に不思議なもので、数
日後にこの集団、森林塾のこ
とを紹介する記事を目にする
こととなったのです。そのコ
ラムを書いていたのが、そう
です、浜田久美子さんでし
た。早速、浜田さんの著書を
借りて、「買って」じゃなくて
ゴメンナサイ)、この森林塾
のこと、また、それ以外の浜
田さんの活動のことなど、興
味深く読ませていただきました。
そんなこんなで、この森
林塾まで辿り着いたのでし
た。

今回、Bコーズ秋の部に参
加させてもらいましたが、開
校のあいさつでは、前回と同
じく島崎先生から今の日本の
森林、そして林業のおかれて
いる状態についてとても熱く
語っていただきました。今す
ぐにでも手入れが必要な森が
山ほど存在していること、そ
の担い手が高齢化し必要な労
働力が足りていないこと。材
の価格が三十年前と変わって
いないこと、最近よく耳にす
ることですが、先生の言葉に
はとて重みがあり、自分た
ちの世代がなんとかしなくて
は、という気持ちにさせられ
てしまいます。
自分は、林業に携わること
もなく、自然保護の活動に参
加するでもなく、自然派生活
を実践するでもなく、今は都
会でごくごく平凡なサラリー
マン人生を送っています。し
かし、自然を愛し、森を守っ
ていきたいと思う気持ちは、
ここに集まってくる皆と同じ
だと思っています。森林塾に
参加したこと、そして、森に
ついて真剣に語り合える仲間
に出会えたこと、これらを自
分の貴重な財産にして、ここ
で学んだ知識や技をもっと
もって活用できるような、そ
んな生活を送っていきたく
と、考えています。
「存在意義は、森にあり」
何をするために自分は存在
しているのか。ふとそんなこ
とを考えたとき、この言葉が
脳裏に浮かびあがりました。
どんな形になるかわかりませ
んが、「森と関わって生活する
こと」を、納得できる人生を
送るためのキーワードにし
たい、そう思っています。
島崎先生、保科先生、森林
塾のスタッフの方々、そし
て、そこで出会ったたくさん
の仲間たちに感謝し、またど
こかの森で会えることを楽し
みにしています。

リレ一通信

お日様を拝む 大月 國晴



我家には、犬が居ます。犬の名は「ハナ」。黒の中型犬の雌です。飼いはじめて十一年になります。そして、「ハナ」との散歩も日課の一つになってます(時々さぼるが)。私の住んで居るのは松本。東に美ヶ原、西に常念岳を中心に北アルプスの山々が連なっているのが見える、開けた田んぼ道を歩くのが、「ハナ」と私の散歩コースなのです。散歩は早朝五、六時頃、夜が明ける時。私の好きな時が流れて行きます。人通りの少ない田んぼ道はさまざま表情で私を迎えてくれます。田植えの頃



の一面の水、池のように水面に空と山が映る時。稲が青々と育ち、すべての稲穂の先に真珠のようなしずくが、朝日を浴びて輝く時。クモの巣が朝露でいたる所で輝く時。黄金色に色づき稲穂を垂れ収穫を待つ時。コンバインで刈り取られた田んぼ。一面の銀世界。春の田の土手のタンポポの群れ。雑草の花の出迎え。毎日何かしらの発見の気持ち良さ。

東の山から陽が昇るすこし前がとつてもステキ。雲に赤みが差し西の北アルプスがうっすら赤くなり、陽は光の柱を四方にちらし、光を増していく、そして力強い小さなまばゆい光が飛び出して来る。日の出はいっ見てもすばらしく、光が心を落ち着かせてくれる。

Natural mistic flowing through the air

こんな事もあった。前夜の満月がまた西の常念岳の真上に光り、朝日が刻々と昇って来た時には、さすがに「ウムー」というため息しか出なかった。自然はすごいや!

毎日、毎日、太陽は昇り、沈み、また昇る。地球上のどんな所である、この偉大なるドラマは繰り返

藤野さんからのメール 10月29日

森林塾・早川清志さま
おはようございます。藤野珠枝です。一ヶ月ほど前、森林塾でいただいたホダギからナメコが出てきました。(傘か?)

ほんのちよつとですが収穫しておつゆの実にしました。美味しかったです。母が大喜びで、「早川さんに報告してね。」とはしゃいでいます。証拠のデジカメ写真、送りましょ



なめこには竹やぶがよく似合う

られ、続けられるのだ。

当たり前にある 空気

当たり前にある 自然の風景

当たり前にある お日様

「生」の原風景が、繰り返される。そんな気にさせられる。そんな朝を見逃す手はありませんぞ。

うか?

森林塾のお陰です、どうもありがとうございます。ホダギは実家の庭の隅のタケヤブに半埋めしてあります。これからもっと出るでしょうか? しばらく楽しみが続くことを期待しています。

ホダギを頂いた塾生の皆さんのところはいかがでしょうか? 次回お目にかかった時に伺うことを楽しみにしています。

コラム

今年度の森林塾も残り少なくなってきましたね。夏の間、濃緑一色だった伊那の山々が上から徐々に色づいてきて、今では山全体が赤黄・緑・茶と幾何学模様のようになっています。山の上から秋がやってくるのを目で見るのができ、日々季節の移ろいを実感できるシーズンです。秋はすっかり街までおりてき

て、風に落ち葉が舞う晩秋の装いです。どの季節も山の眺めは美しいと感じますが、とりわけ今頃は色を楽しむという点では最高です。

まだ伊那に来たことがない時に、落葉松の葉が絶え間なく降ってくる中でキャンプをしたことがあります。その頃はまだ落葉松という名前さえ知っていないかという状態でしたが、日の光に輝くような色と水の流れのように降り注ぐ葉にとっても感動しました。(車の隙間という隙間に葉が入り込んでいてあとが大変でしたけど)

伊那へ来て山のそここに落葉松があるとわかり、また森林塾でこのあたりは落葉松が多いと教えられて、あの黄金の落葉松か、と何だか嬉しくなりました。今までただかわいいと拾ってきて飾っていた実がついた小枝、その実が落葉松の実であったことも伊那へ来て初めてわかりました。それから、すっかり葉を落として冬を過ごした落葉松の枝に芽吹く芽も初めて見ました。小さく柔らかい針のような緑がポツ、ポツと開いて並んで、とてもかわいい芽吹きでした。

かつては、山の一時の姿としか出会ったことがなかったけれど、伊那へ来て一年を通して山や木と触れ合うことができるといふようになりました。枯れ

木に花が咲いて、緑の葉が出て、色を変え、小さな芽をつけまた枯れ木になって、毎年繰り返される自然の営みに癒される日々です。どうか山も木もいつまでも元気でいてほしいと願わずにはいられません。(テッカマン)

前回のコラム執筆は「テッカマン」さんではなく「マチャブチャレ」さんでしたお詫びして訂正します

おわりに

十一月も終わり頃になると、このあたりでも野沢菜漬けが始まります。水が冷たいので洗うのが苦痛で、本家野沢温泉村辺りでは温泉で洗うという時節のニュースが流れ、羨ましい限りですが、やはり信州の冬の食卓にはこれがないと思ひ、冷たさを我慢して川で洗います。寒さには弱く、冬は部屋で丸くなるほうですが、そこぞぼりぼり食べる野沢菜はなんともいえないものです。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P. http://www.koanet.co.jp

